

と聞こゆるほどに、僧都あなたより来て、「こなたは(k) 作者↓尼君

過去「けり」体

あらはにや侍らむ。今日しも、端におはしましける(k) 僧都↓尼君

形容動詞・用 係助 ①僧都↓尼君

⑤僧都↓尼君

かな。この上の聖の方に、源氏の中將の、  
終助・詠嘆

過去「けり」体

わらはやみまじなひにものし給ひけるを、ただ今

マリアに似た熱病のこと

⑤僧都↓源氏

過去「けり」已

なむ聞きつけ侍る。いみじう忍び給ひければ、

係助 ①僧都↓尼君 形容詞・用 ⑤僧都↓源氏

知り侍らで、ここに侍りながら、御とぶらひにも

①僧都↓尼君

①僧都↓尼君

打消「ず」用 過去「けり」体

間投助詞

まうでざりける。「と」のたまへば、「あないみじや」。

(k) 僧都↓源氏

⑤作者↓僧都

形容詞・語幹

いとあやしきさまを、人や見つらむ。「とて、

形容詞・体 完了「つ」終

係助

簾下ろしつ。「この世にのしり給ふ光源氏、かかる

⑤僧都↓源氏

勸誘「む」終

完了「たり」体

ついでに見奉り給はむや。世を捨てたる法師の

(k) 僧都↓源氏 ⑤僧都↓尼君 終助

心地にも、いみじう世の憂へ忘れ、よはひ延ぶる人の

形容詞・用

断定「なり」終

意思「む」終

御ありさまなり。いで、御消息聞こえむ。「とて

(k) 僧都↓源氏

完了「ぬ」終

立つ音すれば、帰り給ひぬ。  
⑤作者↓源氏

と申し上げているうちに、僧都があちらから来て、

「こちらは丸見えではございませんか。今日は特に  
端にいらっしゃいましたことよ。」

この上の聖のところ、源氏の中將が、

おこりの治療にいらっしゃったことを、ちようど今

聞きました。たいへんお忍びなさっていたので、

知りませんで、ここにいなから、お見舞いにも

参りませんでした。「とおっしゃったので、「ああ、  
たいへんな事だよ。」

本当に見苦しい様子を人が見てしまったでしょう  
か。と言って、

簾をおろしてしまった。「今、世間で大評判でいら  
っしゃる光源氏を、このような

機会に見申し上げなされるのはいかがですか。世を  
捨てた法師の

心にも、たいそうこの世の苦しみを忘れ、寿命が

延びるような君の様子です。さあ、御挨拶を申

し上げよう。「と言って

立ち上がる音がするので、(源氏は)お帰りなせつ  
た。